

人間社会学部における教育研究上の目的と三つの方針

1. 人間社会学部の研究教育上の目的

人間社会学部は、教養並びに専門科目に関する教育・研究を通して、幅広い視野を持ち専門分野を深く探究し、知的・道徳的に優れた能力を兼ね備えた人格を育成し、社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とする。

2. 情報社会学科の教育研究上の目的

情報社会学科は、高度に情報化した知識基盤社会に対応できる情報リテラシーを身に付けるとともに、学際的な学びを通して社会の変化に対応できる幅広い知識と教養を習得し、現代社会における諸問題を様々な角度から分析・解決できる人材を育成することを目的としています。

情報社会学科の各専攻の目的は次のとおりです。

経営システム専攻

経営、情報、法律、経済、会計、財務などの知識を修得し、それらの知識を実際の社会事象に応用する能力や、企業や社会組織に内在する課題を的確に設定、認識、解決してゆく能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

メディア文化専攻

コンピュータ・グラフィックスやコンピュータ・ミュージックなどのデジタルメディアに関する知識や技能、背景となる文化や思想を総合的に学ぶことによって、情報技術に精通した高い表現能力を有する人材を養成することを目的とする。

3. 情報社会学科の3つの方針

1) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

情報社会学科は、幅広い教養と知識基盤社会で必要とされる知識・技能を身につけ、それらを主体的に活用して社会に貢献できる人材を育成することを目指しています。これを実現するために、社会の様々な分野において、自ら課題を発見し解決することを通じて変化の激しい現代社会に対応し、主体的に活動してゆこうとする人を求めています。具体的には以下のような意欲を持った入学者を受け入れます。

- 一 経営、情報、法律、経済等を学び、現代社会の様々な課題に立ち向かっていきたい人
- 二 コンピュータ・グラフィックスやコンピュータ・ミュージックなどのデジタルメディアに関する知識や技能を学び、情報技術を活用した表現活動をしたい人
- 三 文化、思想、宗教、歴史を学び、人間社会の普遍的な課題について追究したい人
- 四 様々な分野を横断的に学び、社会で活用したいと考えている人

また、いずれの場合も、高等学校において国語・英語・数学等の教科の基礎学力をしっかりと身につけておくことが望まれます。

こうした入学者を受け入れるため、一般入試の他、センター試験利用入試、推薦入試、A0入試等の多様な選抜方法によってその適性を確認します。一般入試・センター試験利用入試では学力試験により、推薦入試・A0入試では面接、書類審査、口頭試問、課題審査等により評価を行います。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

情報社会学科では、経営学を中心に、情報、法律、経済を総合的に学ぶ経営システム専攻と、コンピュータ・グラフィックスやコンピュータ・ミュージックなどのデジタルメディアに関する知識や技能、背景となる文化や思想を総合的に学ぶメディア文化専攻の2つの専攻を設けています。

情報社会学科のカリキュラムは、社会のどの分野でも必要となる知識の習得を助け、多様な領域に目を向けることのできる素地を育てるために、さまざまな分野の教養科目が設けられています。また、学生一人ひとりの将来の進路選択にあわせて、専門的な知識・技術を効果的かつ柔軟に学べるように編成されています。1年次には大学での「学び」への移行を円滑にするために、少人数クラスの演習科目を開講し、大学における学び方を身につけます。また2年次には社会において不可欠なコミュニケーション能力、問題発見・解決能力、情報活用力も育成する等、社会人基礎力を早期に身につけることを目指します。3、4年次の演習においては指導教員による個別指導を通じて専門的な知識や技術を深めます。専攻制はフレキシブルに運営されており、自分の所属する専攻以外の科目も自由に履修することができます。また、卒業後の進路選択を的確に行えるようキャリア・デザイン科目も設けています。

3) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

次の要件を満たしていることを卒業研究により確認したうえで、所定の単位を取得した人に学位を授与します。

- 一 社会への深い理解と教養を有しており、それらを実際の社会で活用できる能力を有している。
- 二 さまざまな情報機器を駆使して、情報を活用、表現する能力を有している。
- 三 社会に必要とされる高いコミュニケーション能力と問題発見・解決能力を有している。

4. 心理学科の教育研究上の目的

心理学科は、人間の心を科学的に解明する教育・研究を通して、人間の心を深く理解し、社会に貢献する人材を養成することを目的としています。

心理学科の2専攻の目的は次のとおりです。

- 一 ビジネス心理専攻は、心理学の知識に併せて社会人として必要な心理学的技能を学び、広く社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
- 二 臨床心理専攻は、心理学の基礎と応用の知識を習得すると共に、多様な実習を通じて臨床心理学に関わる専門職に就く人材を養成することを目的とする。

5. 心理学科の3つの方針

1) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

本学科では、人間の心と行動を科学的に解明する教育・研究を通じて、人間の心を深く理解し、社会に貢献できる人材を養成することを目的としています。心理学は他の学問と比べ、非常に関口の広い学際的な学問です。文系と理系という枠組みにとらわれずに、客観的な視点から自分や他者の心を理解して、仕事や社会生活に生かしたい人、あるいは、心の問題を抱えた人に対するケアやカウンセリングなどの専門職を目指す人など、人間の心の探究に関心を持つ人材を広く求めています。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

臨床心理学と基礎心理学の2分野をバランスよく、そして深く学ぶことのできるカリキュラム編成をしています。基礎心理学の分野では、心を科学的に理解するために、知覚、学習、認知、生理心理、脳科学などの科目を学び、臨床心理学の分野では心のケアやカウンセリングを中心にした科

目を学びます。この2つの分野の講義・演習科目をバランス良く配置することによって、一人一人の人間を細やかに見る目を養うとともに、人間だけでなく様々な物事を客観的にとらえる姿勢を涵養します。

また、学生の興味と卒業後の進路希望のニーズにきめ細かく対応できるよう、「ビジネス心理専攻」と「臨床心理専攻」の2つの専攻を設けています。心理学の知識を一般企業などのビジネス場面で応用することができるようになりたいという学生を対象とした「ビジネス心理専攻」は、心理学の知識に併せて社会人として必要な心理学的技能、ビジネスシーンにおけるその応用を学ぶことができるカリキュラム構成になっています。臨床心理学の専門的知識や技能を要求される専門職に就きたいという学生を対象とした「臨床心理専攻」は、公認心理師資格試験の受験資格を得るための大学における必要な全科目を含むカリキュラム構成になっています。臨床心理専攻には、臨床場面で必要とされる知識と技能とを修得するために、学内外施設機関での実習を含む専門科目が体系的に配置されています。

3) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

次のような要件を満たしていることが、学位授与の条件となります。

- 一 心理学の専門科目、実習科目を履修することにより、心理学の専門的知識と心理的データの測定と解析技法を身につけている。
- 二 さまざまな「心の問題」に対して科学的な説明を行える思考能力を持ち、それらの問題への対処方法を見出すことができる。
- 三 社会生活において、協調性と倫理性を保ちながら「心の問題」に対処できる実践能力を有している。

これらの知識と能力の修得については、所定の単位取得と、実験・調査を実施して得た客観的なデータを心理学の広い知見に基づいて分析、考察する卒業研究によって認定されます。